

甲斐市文化財調査報告第2集
(山梨県)

埋蔵文化財試掘調査年報 '05

2005

甲斐市教育委員会

甲斐市文化財調査報告第2集
(山 梨 県)

埋蔵文化財試掘調査年報 '05

2005

甲斐市教育委員会



松ノ尾①遺跡出土の貿易陶磁器（白磁碗・皿）

序 文

甲斐市は昨年9月1日に竜王町・敷島町・双葉町が合併し、人口74,000人あまり、県内第2位の人口を有する市として発足しました。

本市には白鳳時代の古代窯である天狗沢瓦窯や平安時代の大集落である松ノ尾遺跡、赤坂台地を中心とした古墳群、また堤防遺跡など貴重な遺跡の存在が知られています。しかし近年は人口急増地域として宅地開発や大型店舗建設など多くの開発事業が行われ、行政として埋蔵文化財の保護が急務となっており、これまで3町で進めてきた文化財保護行政を引き継ぎつつ、新たな体制を整えて対応しているところであります。

このような状況のもと、平成16年度に文化財保護対策事業として国・県の補助金を受け、包蔵地内における開発に先立つ埋蔵文化財の遺存状況把握のための試掘調査を実施してきました。ここに刊行しました年報は、その調査結果をまとめたものとなっております。

今後も開発によって消滅を余儀なくされる貴重な文化遺産を後世に伝え、普及させていくことが私たちに課せられた責務と考えております。

最後になりましたが、本年度旧竜王町・敷島町・双葉町及び甲斐市の文化財保護・保存対策に際し、ご理解とご協力を賜りました関係各位に対し感謝いたしまして序といたします。

平成17年3月

甲斐市教育委員会
教育長 中 込 豊 弘

例 言

- 1 本年報は、山梨県甲斐市における埋蔵文化財試掘調査に関する報告書である。
- 2 試掘調査および整理調査は、文化庁・山梨県より補助金を受けて甲斐市教育委員会が実施した。
- 3 本年報の執筆は、第1・3章を大寫正之・高須秀樹、第2章を大寫・皆川洋・小坂隆司が担当した。編集は高須・小坂が行った。
- 4 試掘調査で得られた出土品およびすべての記録は、甲斐市教育委員会に保管してある。
- 5 試掘調査の実施および本書作成にあたる次の方々よりご教示、ご協力をいただいた。ここにご芳名を記して感謝申し上げる。
手塚直樹（青山学院大学）、合田芳正（中央大学）、坂本美夫、森原明廣（山梨県埋蔵文化財センター）、平野 修、櫛原功一（山梨文化財研究所）、山下孝司、閨間俊明（韮崎市教育委員会）、順不同・敬称略

調 査 組 織

調査主体	甲斐市教育委員会 教育長 中込豊弘
調査事務局	甲斐市教育委員会生涯学習文化課 長 田 徳 一 （生涯学習文化課課長） 大 寫 正 之 （生涯学習文化課文化財担当リーダー） 皆 川 洋 （生涯学習文化課文化財担当副主査） 高 須 秀 樹 （生涯学習文化課文化財担当副主査）
調査担当者	大 寫 正 之 皆 川 洋 高 須 秀 樹 小 坂 隆 司 （生涯学習文化課文化財調査員囑託、 平成16年12月まで）
調査・整理 参加者	青山制子・飯室久美恵・石川弘美・長田由美子・小林明美 望月典子・高添美智子・保延勇・望月典子・森沢篤美・ 関本芳子・飯室久美恵・堤 吉彦・保坂秋蘭・早川みどり

目 次

序 文
例 言
調査組織

I 平成 16 年度(2004)埋蔵文化財保護行政概要	2
II 各遺跡試掘調査概要	7
a. 松ノ尾遺跡①	7
b. 三昧堂遺跡①	9
c. 松ノ尾遺跡②	10
d. 県道田富・敷島線（三昧堂遺跡②・御岳田遺跡①）	13
e. 広域農道	16
f. 松ノ尾遺跡③	18
g. 両目塚北遺跡	19
III まとめ	20

報告書抄録

挿 図 目 次

第 1 図 試掘調査地点 1（敷島地区）	4	第 11 図 A トレンチ 1・2 号住居跡と 出土遺物	11
第 2 図 試掘調査地点 2（竜王地区）	5	第 12 図 三昧堂②・御岳田①遺跡位置図	13
第 3 図 試掘調査地点 3（双葉地区）	6	第 13 図 県道田富・敷島線試掘調査区図	13
第 4 図 松ノ尾遺跡①位置図	7	第 14 図 県道田富・敷島線住居跡と出土遺物	14
第 5 図 松ノ尾遺跡①調査区図	7	第 15 図 広域農道調査区位置図	16
第 6 図 松ノ尾遺跡① C トレンチ西側住居跡と 出土遺物	8	第 16 図 広域農道調査区図	17
第 7 図 三昧堂遺跡①位置図	9	第 17 図 松ノ尾遺跡③位置図	18
第 8 図 三昧堂遺跡①試掘調査区図	9	第 18 図 松ノ尾遺跡③試掘調査区図	18
第 9 図 松ノ尾遺跡②遺跡位置図	10	第 19 図 両目塚北遺跡位置図	19
第 10 図 松ノ尾遺跡②試掘調査区図	11	第 20 図 両目塚北遺跡試掘調査区図と出土遺物	19

表 目 次

第 1 表 平成 16 年度試掘調査一覧表	3
-----------------------	---

I 平成 16 年度（2004）埋蔵文化財保護行政概要

平成 16 年度状況概要

甲斐市は、平成 16 年 9 月 1 日に竜王町・敷島町・双葉町が合併し誕生した。山梨県の北西部に位置し、人口は 74,233 人（平成 17 年 1 月 1 日現在）、面積は 71.94 k m²、南北約 20 km、東西約 9 km と南北に細長い地形で、南部は平地で住宅地と農地が混在する地域で近年急速に市街化が進んでいる。また北部は山地や丘陵地で農地が広がるが、丘陵地についても平地同様、一部で市街化が進んでいる。

本市の包蔵地分布図を概観すると、そのほとんどが平地と丘陵地で確認されており、平地南側は釜無川に係わる堤防跡、中近世の遺跡が点在し、平地北側の扇状地上の微高地には、金の尾遺跡や松ノ尾遺跡など縄文時代から古墳・平安時代さらに中世にいたる幅広い時代の大規模な遺跡が確認されている。また丘陵地については、縄文時代を中心とした遺跡が点在し、先端部は中塚古墳など古墳時代後期の赤坂台古墳群、さらに白鳳期の天狗沢瓦窯跡が構築されている。

市内は、国道 20 号線、52 号線、県道は「甲府・敷島・韮崎線」、「敷島・田富線」、「甲府・櫛形線」市道三味堂・村上線などの道路網の発展、また中央本線竜王駅周辺も含め、商業施設、住宅施設などの大小を問わない開発が頻繁に行われてきている。

今年度の開発は、合併以前の傾向と同様で、宅地造成事業や個人住宅建設、商業施設の建設といった民間開発が多い。その内、個人住宅については保護層の確保を行った建設が多く、工事立会い・慎重工事の指導件数も増加傾向にある。

今後の取り組み

昨年 9 月 1 日に 3 町が合併し甲斐市として市制が施行されたことに伴い、中央本線竜王駅周辺整備などの大型公共工事の計画があり、また大型店舗出店をはじめとした大小の民間開発も一層の増加傾向にある。このことから試掘調査や緊急調査の件数もそれに比例して増加していくと考えられる。

特に民間開発に起因するものについては、個人の不動産などに関する問題、民間業者に対する金融機関による支援など諸事情が関連しており、デリケートな面を抱えているのが実情であり、さらに緊急を要する対応に迫られることも少なくない。こうしたことから、包蔵地の問い合わせがあった時点から一貫した整合性のある対応が必要であり、関係者と綿密な調整を行い、十分な理解を得た上で文化財保護行政を進めていかなければならない。

このような状況を踏まえ、迅速かつ的確に執行できるよう、平成 13 年度に旧敷島町で導入した『遺跡情報管理システム』を今後全市域を網羅するシステムに拡大し、包蔵地や過去の調査状況、遺跡の性質などの管理を一元化し、より有効な活用をしていくことを検討している。

本市では当面の間、原因者が官民を問わず、発掘調査に関しては市教育委員会において行こととするが、本市としてどのような調査体制が望ましいのか、様々な面から検討を行い、早急にその体制を確立していかなければならないことが今後の大きな課題として挙げられる。

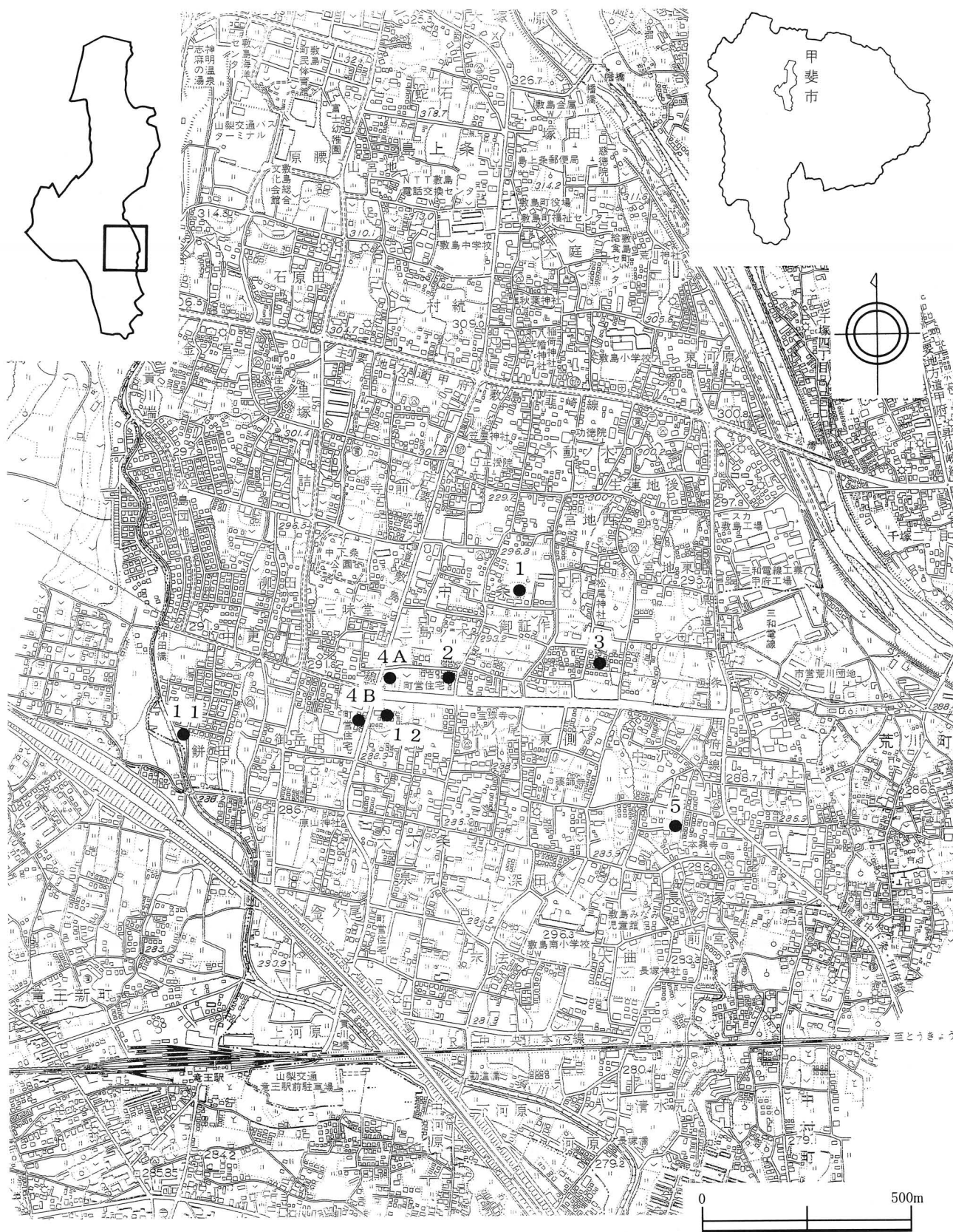
平成 16 年度調査一覧

【試掘調査】

No.	遺跡名	調査地	調査対象面積	調査原因	種別	時代	主な遺構	主な遺物
1	松ノ尾 ①	中下条1467-1・3・4、1471-1	597㎡	宅地造成	集落跡	縄文～中世	住居跡 土坑	土師質 土器
2	三昧堂 ①	中下条928-2	132㎡	公民館 建設事業	集落跡	古墳・平安	住居跡	土師器
3	松ノ尾 ②	中下条1851-1・3、 1852-1	481㎡	宅地造成	集落跡	縄文～中世	住居跡 土坑	土師器
4	A 三昧堂 ②	大下条地内	6,200㎡	県道拡幅	集落跡	古墳・平安	なし	土師器
	B 御岳田 ①				集落跡	古墳・平安	住居跡 土坑	土師器
5	中 沢 C	長塚78-1外	3,432㎡	集合住宅	散布地	古墳	なし	なし
6	日 向	大垓字日向841-9外	2,041㎡	宅地造成	散布地	縄文	なし	なし
7	霞 堤	万才字中井195-18	332㎡	個人住宅	堤防跡	近世	なし	なし
8	篠原 壘 址	篠原字乙房2312-3	232㎡	個人住宅	城館址	中・近世	なし	なし
9	広域農道	宇津谷字大中丸横間々 3312-143外	6,875㎡	広域農道 建設事業	—	なし	なし	なし
10	飯富氏屋敷	西八幡字法印村前 1063-6	228㎡	個人住宅	城館址	中世	なし	なし
11	御岳田 ②	大下条字餅田 793-3	69㎡	個人住宅	散布地	古墳	なし	なし
12	松ノ尾 ③	大下条字松ノ尾 1049-1	835㎡	倉 庫	集落跡	縄文～中世	なし	土師器
13	両目塚北	下今井字南原 2946外	19,825㎡	遊戯施設	散布地		土坑	キセル
14	孤 石 A	宇津谷字孤石1920	66㎡	農道拡幅	散布地	縄文	なし	なし

第 1 表 平成 16 年度試掘調査一覧表

- 【試掘調査】 竜王地区－3件 }
 敷島地区－7件 } 内訳〔第1表のとおり〕
 双葉地区－4件 }
- 【工事立会】 竜王地区－5件 内訳〔個人住宅2件、倉庫1件、道路改修1件、水路1件〕
 敷島地区－16件 内訳〔個人住宅12件、水路3件、店舗1件〕
 双葉地区－1件 内訳〔個人住宅1件〕
- 【慎重工事】 竜王地区－0件
 敷島地区－33件 内訳〔個人住宅33件〕
 双葉地区－0件
- 【発掘調査】 竜王地区－0件
 敷島地区－3件 内訳〔宅地造成2件、公民館建設1件〕
 双葉地区－0件



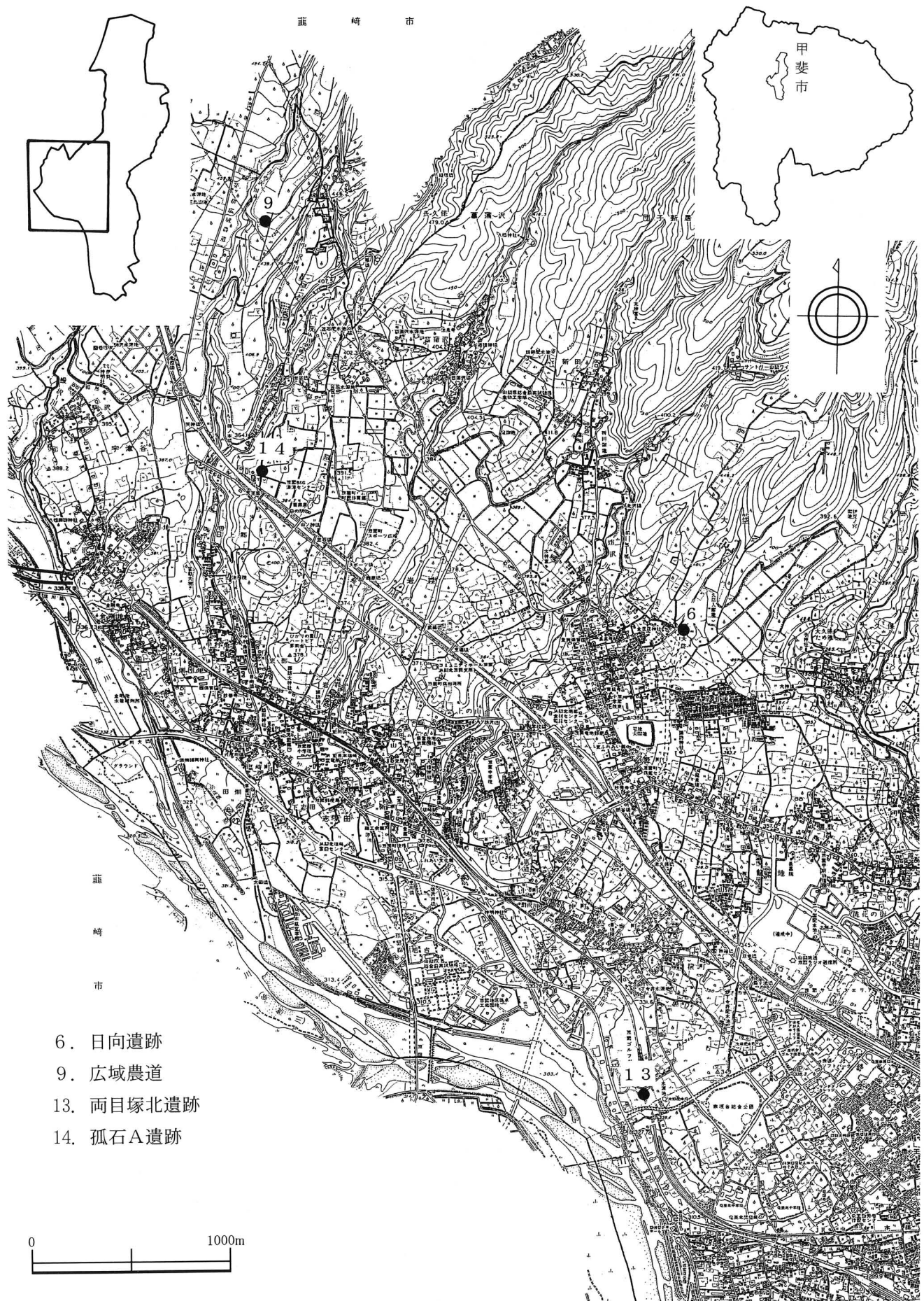
- | | |
|-------------|------------|
| 1. 松ノ尾遺跡① | 5. 中沢C遺跡 |
| 2. 三味堂遺跡① | 11. 御岳田遺跡② |
| 3. 松ノ尾遺跡② | 12. 松ノ尾遺跡③ |
| 4 A. 三味堂遺跡② | |
| 4 B. 御岳田遺跡① | |

第1図 試掘調査地点1(敷島地区)



- 7. 霞堤
- 8. 篠原墨址
- 10. 飯富氏屋敷

第2図 試掘調査地点2 (竜王地区)



- 6. 日向遺跡
- 9. 広域農道
- 13. 両目塚北遺跡
- 14. 孤石A遺跡

第3図 試掘調査地点3 (双葉地区)

II. 平成 16 年度試掘調査概要

a. 松ノ尾遺跡① (第 1 図-1)

所在地 甲斐市中下条字御証作 1467-1・3・4 同 1471-1

調査原因 宅地造成

調査期間 平成 16 年 5 月 18~21、24 日

調査対象面積 2,303 m²

調査担当者 小坂隆司

調査概要 荒川右岸から約 700 m の距離に位置し、この荒川に第 4 図 松ノ尾遺跡①位置図より開析されてきた扇状地上に占地している。今回の調査地点はちょうど松ノ尾遺跡の北側に位置している。

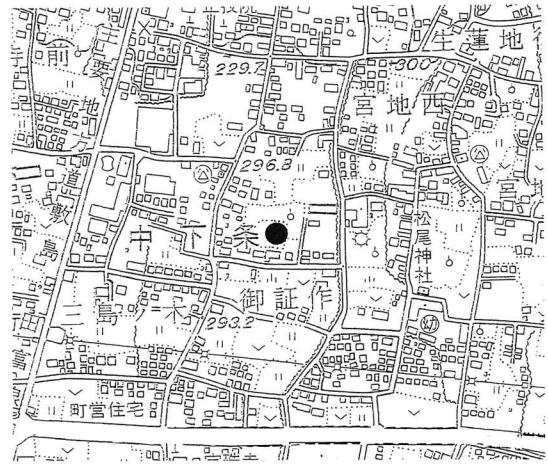
開発予定地内に A~E の計 5 個所に試掘溝を設定し、遺構や遺物の有無について確認調査を行った。

その結果、各試掘溝内から住居跡や土坑、溝、ピットなどからなる遺構や古代・中世の遺物が出土した。

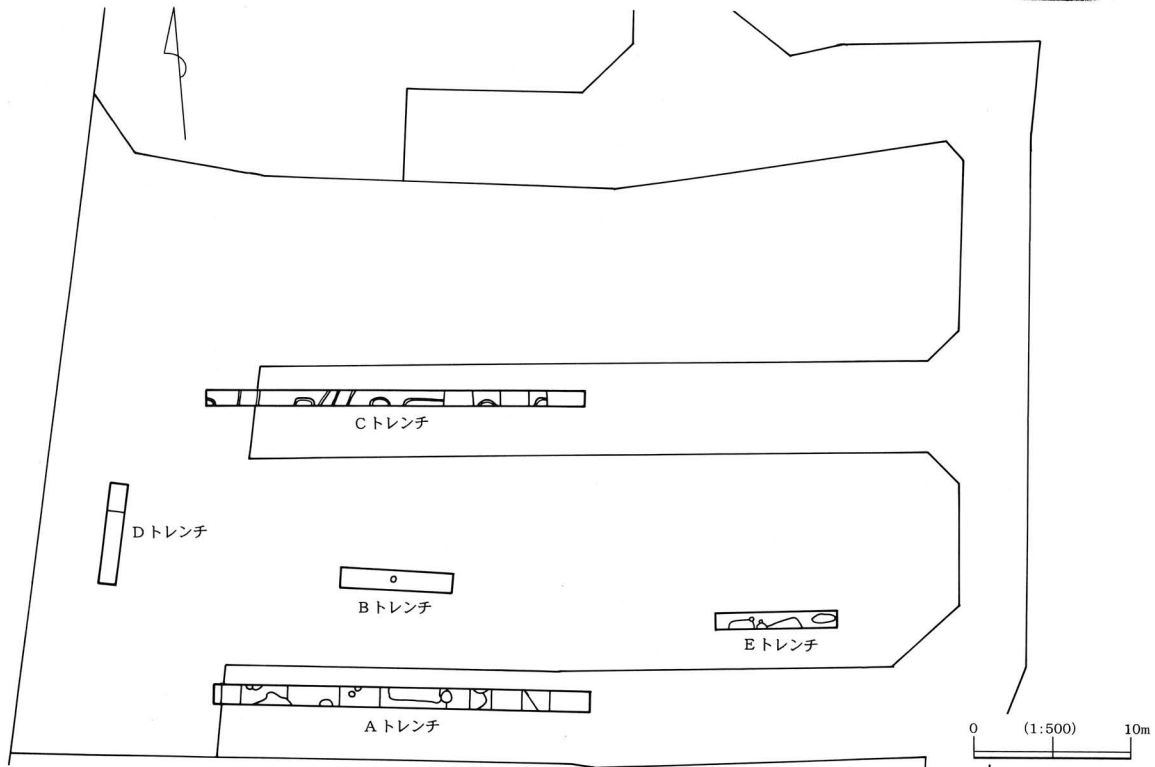
試掘溝 A では、その中央と西側で住居跡のカマドが計 2 基確認されたが、試掘溝内の西側にかけて遺構の密度が高くなることが明らかとなり、とくに試掘溝の西側では 3 軒以上の住居跡が重複していることが観察された。

試掘溝 C は、住居跡 3 軒、土坑 4 基、溝 2 条、ピット箇所が発見された。土坑とピットは灰褐色土の覆土を有し、遺物には陶磁器片などの遺物がみられ、時期的には中世に相当するものと考えられる。また、発見された 3 軒の住居跡は土師質土器や灰釉陶器などの出土から平安時代後半のものである。中でも試掘溝西側で発見された 1 号住居跡は中世の溝やピットに壊されていたが幸い硬化した良好な床面が残存していた。出土遺物には小皿、脚高高台坏、灰釉陶器の碗などがみられ、青白色の釉葉が施された白磁皿の底部片(巻頭カラー)も伴っている。

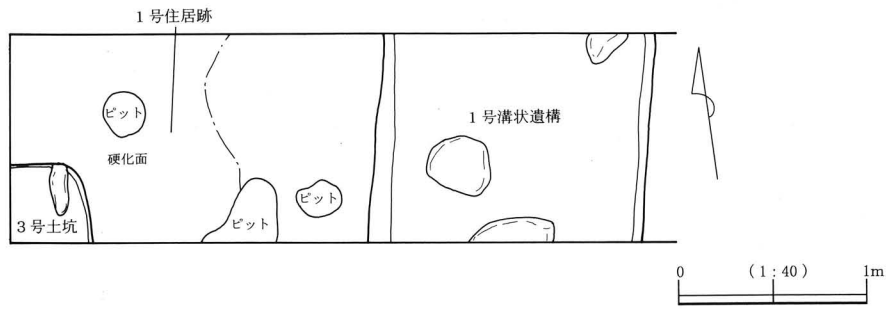
試掘後の協議により、取り付け道路部分については平成 16 年 6 月から約 1 ヶ月間にわたり本調査が実施され、平安時代後半(11~12 世紀代)の住居跡計 15 軒などが確認された。住居の遺物は、完形に近い土師質土器が多く灰釉陶器のほか白磁も多く伴っており、本地域の歴史・編年研究にとって貴重な資料が得られている。



第 4 図 松ノ尾遺跡①位置図



第 5 図 松ノ尾遺跡①調査区図



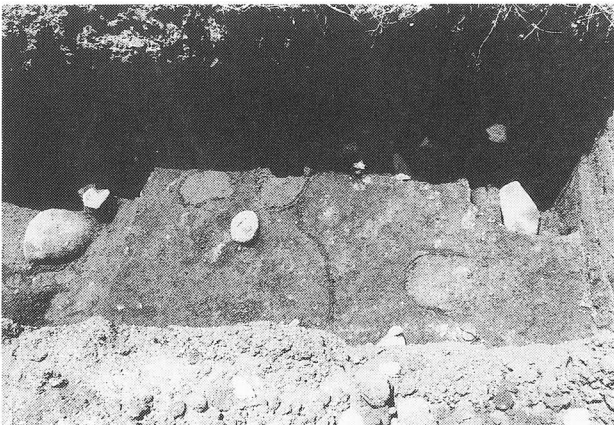
第6図 松ノ尾遺跡① Cトレンチ西側住居跡と出土遺物



1. Cトレンチ



2. Aトレンチ



3. Cトレンチ西側住居跡



4. Cトレンチ西側住居跡出土遺物

b. 三昧堂遺跡①（第1図-2）

所在地 甲斐市中下条 928-2

調査原因 公民館建設

調査期間 平成16年5月25～6月1日

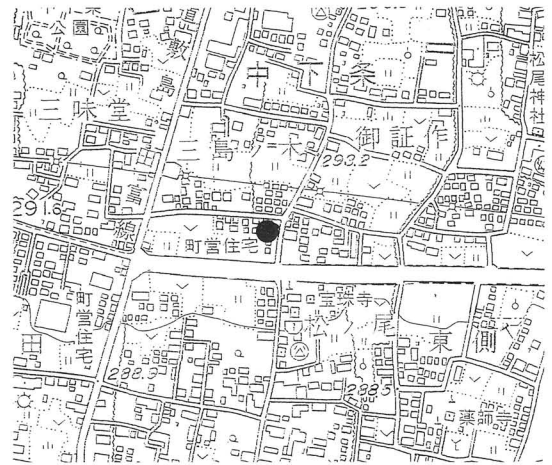
調査対象面積 132㎡

調査担当者 大寫正之

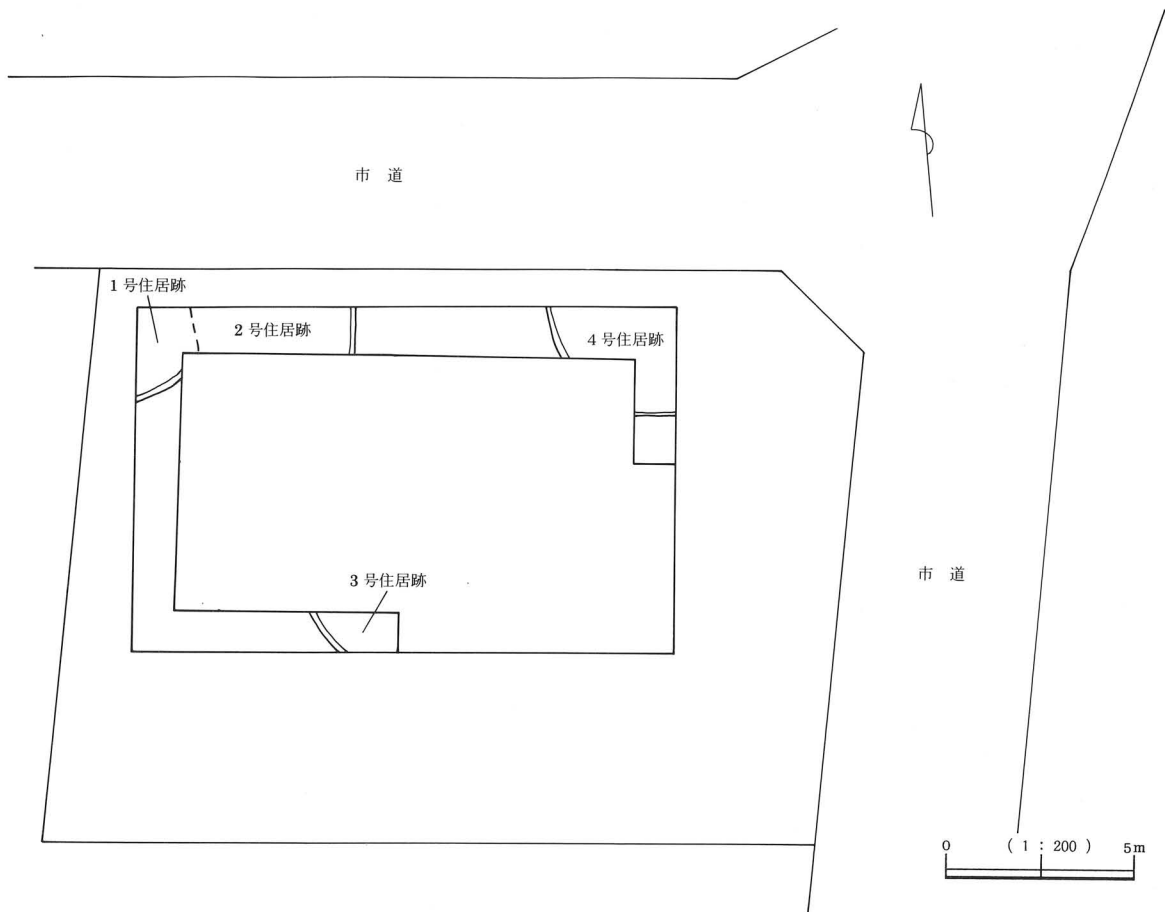
調査概要 三昧堂遺跡は、甲斐市の東端を流れる荒川によって形成された扇状地の扇中央部分に位置する。遺跡のある敷島地区は南北方向に伸びる微高地が東西に二筋あり、本遺跡は東側の微高地の西端にあたる。

調査は、幅1.1mのトレンチを建設予定地にコの字状に設定した。

その結果、地表面下50cmで住居跡6箇所が認められた。時期は、弥生時代後期1軒、古墳時代後期3軒、平安時代後期1軒である。弥生期の住居跡は、調査区のほぼ中心にあり、東西軸9mを測る。弥生期住居跡北西箇所と一部重複するかたちで平安期住居跡が確認された。またこの平安期住居跡と古墳期住居跡1軒が重複関係にあり、さらに調査区東側に古墳期住居2軒が重複して確認された。



第7図 三昧堂遺跡①位置図



第8図 三昧堂遺跡①試掘調査区図

c. 松ノ尾遺跡② (第1図-3)

所在地 甲斐市中下条字冷田 1847-1 外

調査原因 宅地造成

調査期間 平成16年6月14~18日

調査対象面積 3,444 m²

調査担当者 小坂隆司

調査概要 調査地点は荒川右岸から約700mの距離に位置する。

今回の試掘地点はちょうど松ノ尾遺跡の中央北東寄りにあり、周辺では過去に第I・II・V次となる本調査が行われている。

開発地域内には、道路開発予定箇所を中心としてA~Cの計3箇所の試掘溝を各々東西方向に向かって設定し、遺跡の有無について確認調査を行った。

試掘溝A：試掘溝の中央やや東よりから、地表面下約60cmから重複した状態で2軒の住居跡が確認された。住居跡から出土した遺物には、古墳時代後期に相当する土師器の坏や甕の破片などがある(第16図)。

試掘溝B：地表面下約40~70cmで住居跡3軒(内2軒重複)、土坑2基、溝1条が確認された。出土遺物から各住居跡は古墳時代(前期?)-2軒、平安時代(後期)-1軒に相当するものとみられる。また、溝跡は平安時代(9世紀代)に位置づけられるとみられ、放射状暗文を施した坏などが出土している。

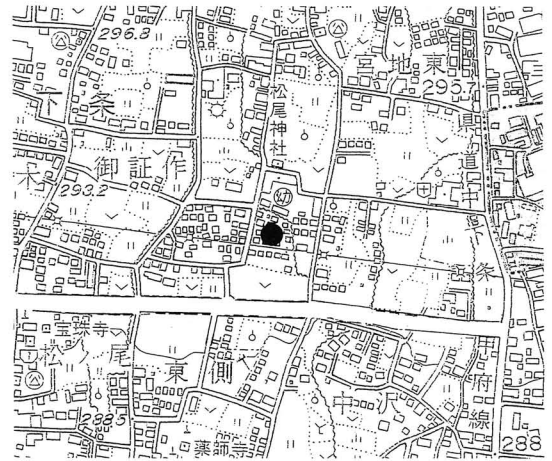
試掘溝C：西側(試掘溝C1)は大きな攪乱が複数入っており、遺物は数多く出土したが遺構の存在は把握し難かった。これに比べ東側(試掘溝C2)では攪乱は少なく、遺存状態は良好で住居跡1軒や溝跡1条、土坑2基、ピットなどが確認された。

住居跡は北側にカマドを有し、住居西側は攪乱で壊されていた。遺物は須恵器の甕や高台坏があり、8世紀代のものとみられる。

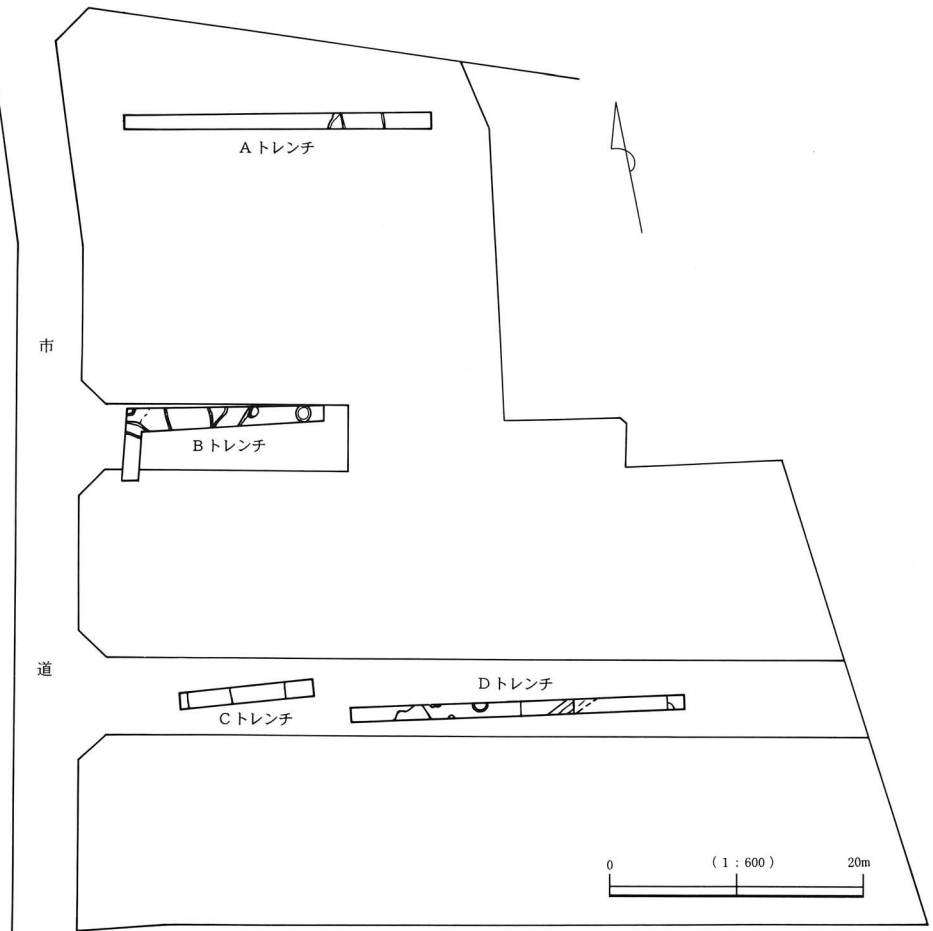
そして、試掘溝C2の中央やや東寄りで深掘りをおこなったところ、箱葉研状を呈する溝跡が発見され、壁は石垣状に人頭大以上の石が積み上げられた状態であった(写真7・8)。

試掘後の協議により開発区域内の道路建設部分を平成16年7月2~30日にかけて本調査を実施し、古墳~平安時代にかけての住居跡17軒、土坑10基、溝状遺構4条などが調査された。

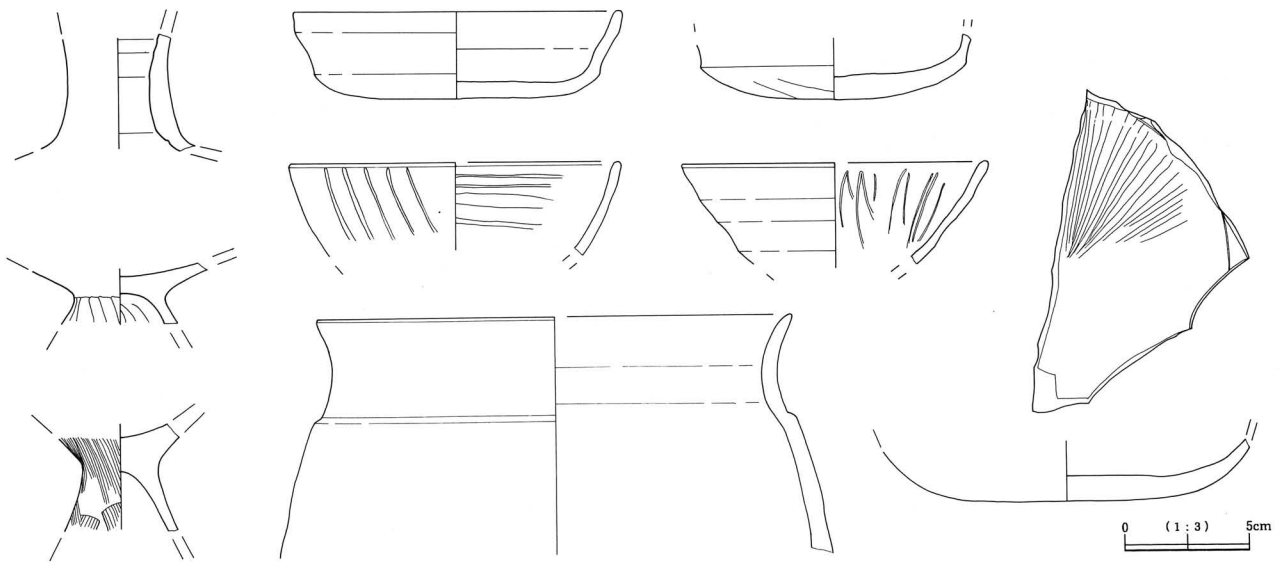
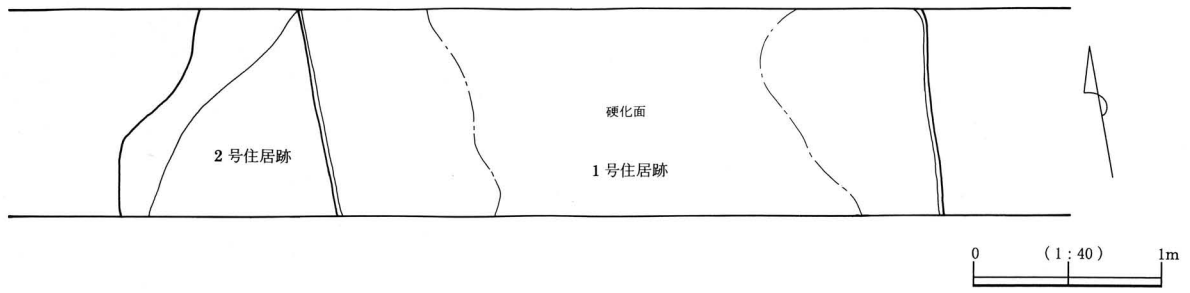
なお、この本調査では奈良時代(8世紀代)の須恵器甕や土師器坏などが周辺での調査に比べ比較的目立って出土している。



第9図 松ノ尾遺跡②位置図



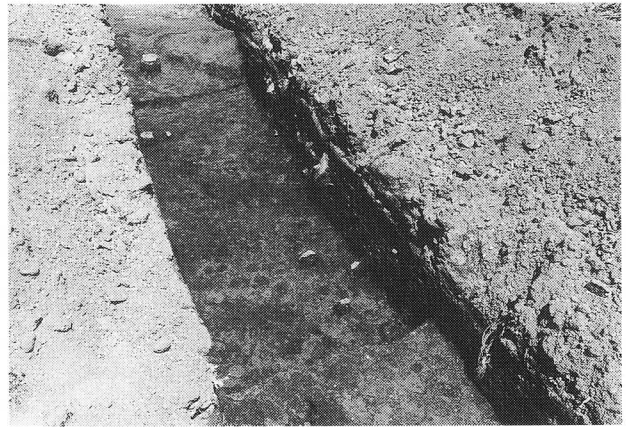
第10図 松ノ尾②試掘調査区図



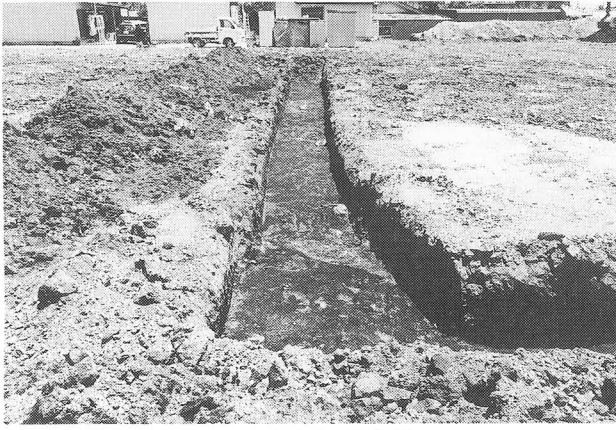
第 11 図 A トレンチ 1・2 号住居跡と出土遺物



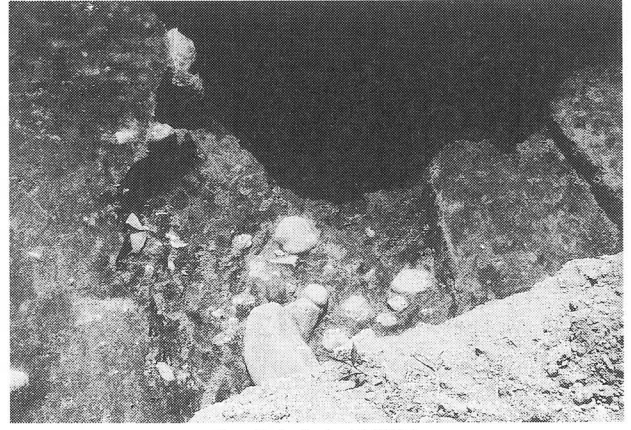
1. A トレンチ全景



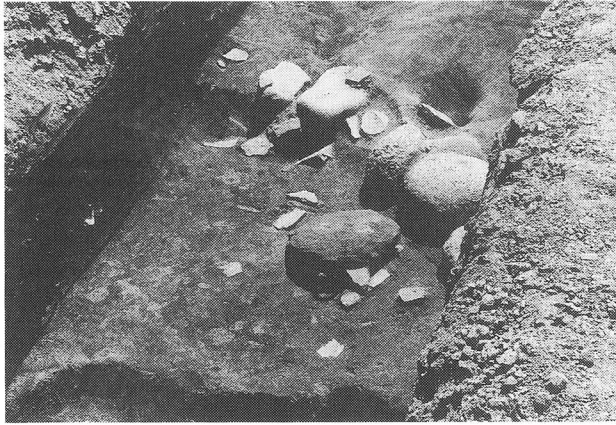
2. A トレンチ 1・2 号住居跡



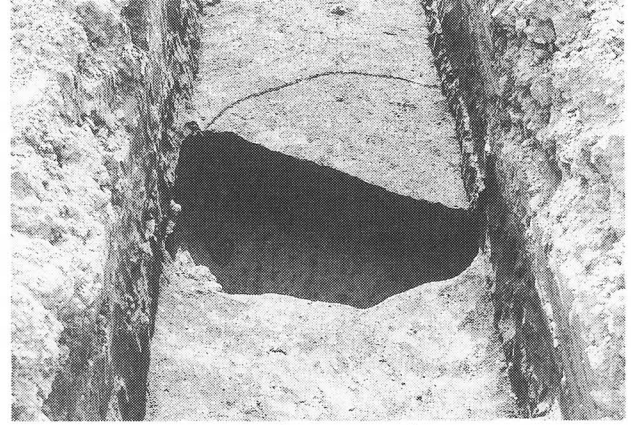
1. B トレンチ全景



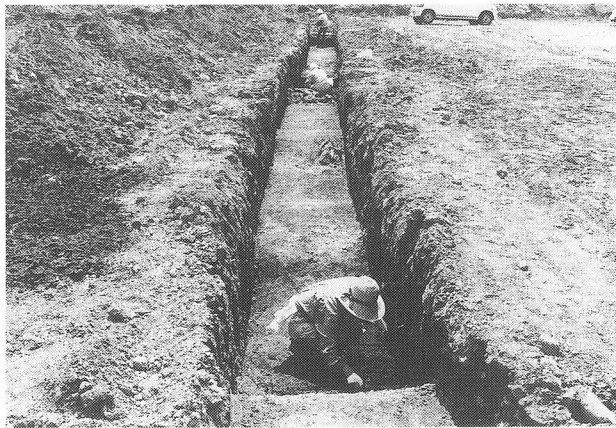
2. B トレンチ溝跡



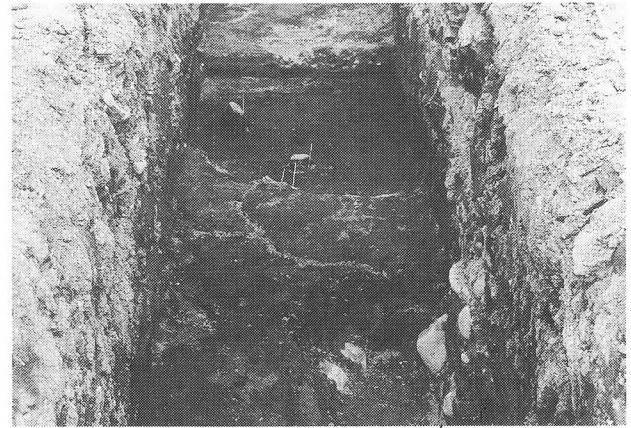
3. B トレンチ住居跡



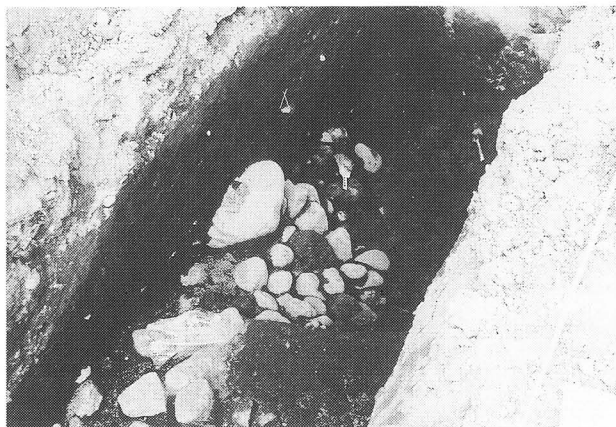
4. B トレンチ土坑



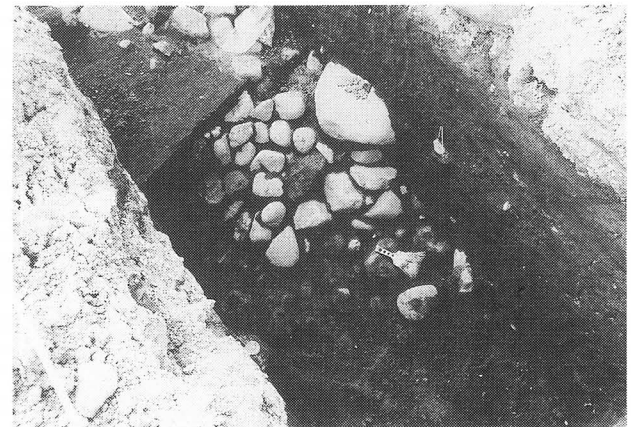
5. C トレンチ-b 全景



6. C トレンチ-b 住居跡



7. C トレンチ-b 石垣状の溝跡 1



8. C トレンチ-b 石垣状の溝跡 2

d. 三昧堂遺跡②、御岳田遺跡①（第1図-4）

所在地 甲斐市大下条地内

調査原因 県道田富・敷島線建設

調査期間 平成16年9月6・8～10日

調査対象面積 6,200㎡

調査担当者 小坂隆司

概要 甲斐市の南東部をほぼ南北に縦断する県道田富・敷島線の拡幅工事に伴う試掘調査を実施した。

ちょうど都市計画街路愛宕町下条線と上記の県道が東西南北に交差する地点から北へ約145m、南へ約165mの県道沿い（両側約3m）が調査の対象となり、計5箇所に対して試掘溝を設定し遺構・遺物の有無について確認を行った（交差点北側是三昧堂遺跡、南側は御岳田遺跡の包蔵地に属す）。

第1ブロック（三昧堂遺跡②）：東西に走る愛宕町下条線と県道田富・敷島線との交差点から北側にあたり、県道沿いの東側で試掘溝(A・B)を設定した(第13図、写真1・2参照)。両試掘溝とも表土から深さ約70～100cmで砂質の褐色を呈する地山を確認したが、小破片の土器が数点出土しただけで遺構は発見されなかった。

第2ブロック（御岳田①遺跡）：上記交差点から南側の県道西側を中心にC～Eの計3箇所を試掘溝を設定した。

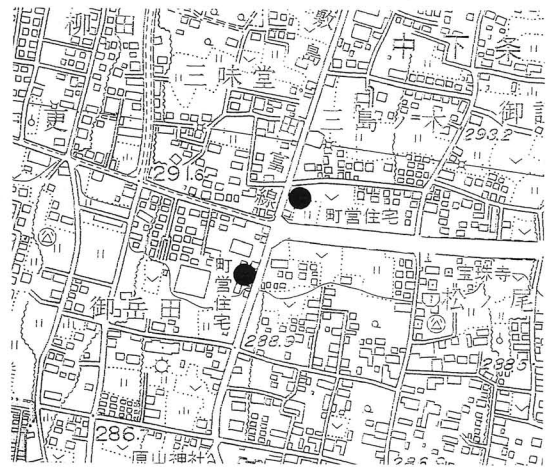
南側第2ブロック周辺での基本土層は、1. 表土層(20～30cm)、2. 赤褐色土層(約10cm)、3. 黒灰褐色土層(約20cm)、4. 褐色土層で構成されている。試掘溝C・Dでは3層にあたる黒灰褐色土は認められなかった。2層赤褐色土はこれまで周辺地域での試掘や本調査でも確認されており水田の床土に相当する土層で、試掘溝C・Dではおそらく過去における水田の構築により基本土層の3層が削平されてしまっているものとみられる。

試掘溝Eでは、上記の各土層(1～4層)が堆積しており3層黒褐色土は多数の遺物を伴う包含層で、この3層を取り除くと地山にあたる4層褐色土層が現われ、この4層上面から住居跡3軒、土坑2基が発見されている。

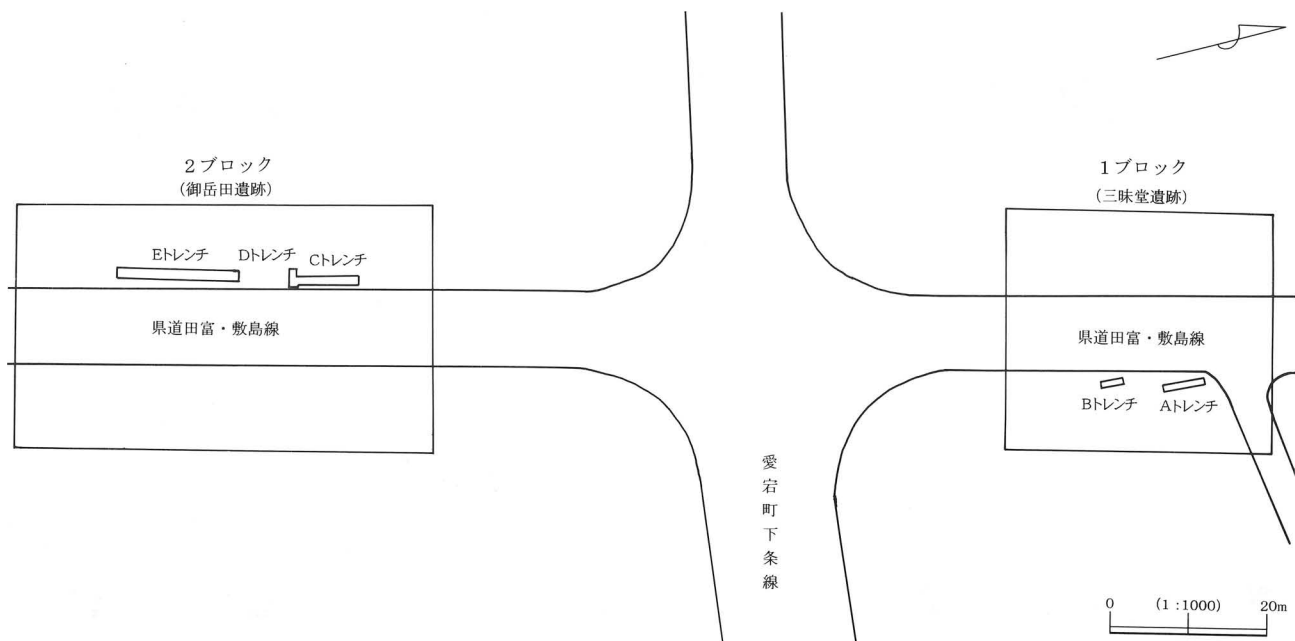
1号住居跡は試掘溝の南側にあり土師質土器（脚高高台坏、坏など）を出土し、1号土坑と重複していた。

2・3号住居跡は試掘溝中央で重複し、2号住居跡からは赤橙褐色を呈する甲斐型坏やほぼ完形品である灰釉陶器の碗などが出土している。3号住居跡は2号住居跡を切っており、遺物には11世紀前後の坏がみられる。

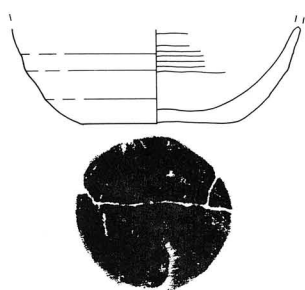
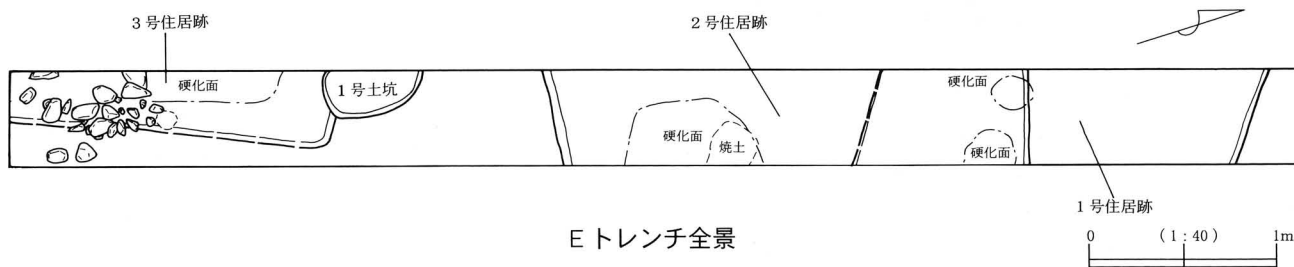
この結果、現在市教委と峡中地域振興局建設部とで協議が進めており、17年年度に本調査を実施する予定である。



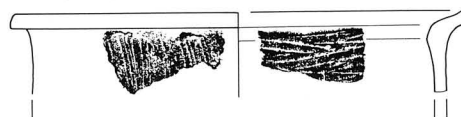
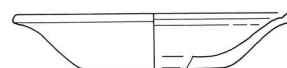
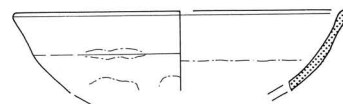
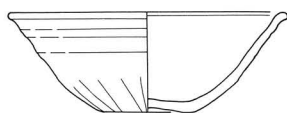
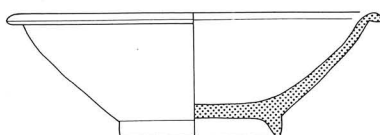
第12図 三昧堂②・御岳田①遺跡位置図



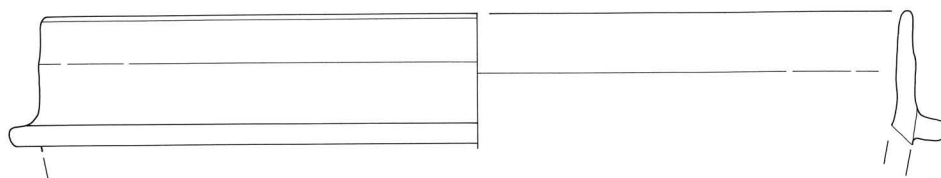
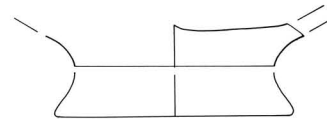
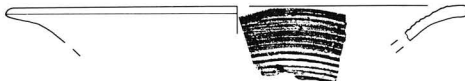
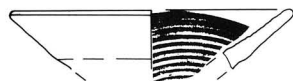
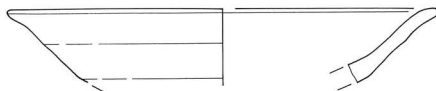
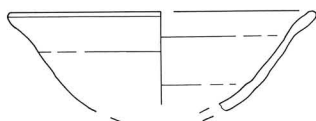
第13図 県道田富・敷島線試掘調査区図



1号住居跡



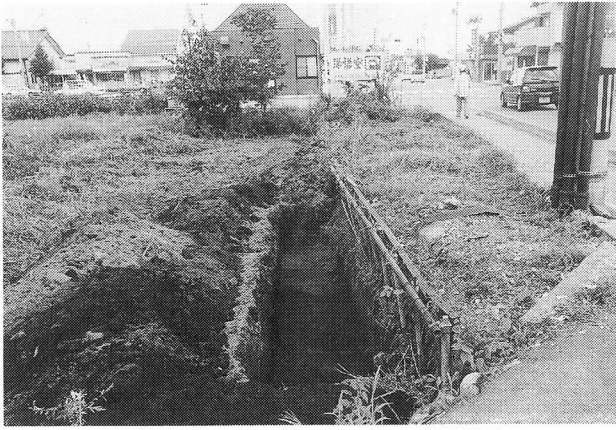
2号住居跡



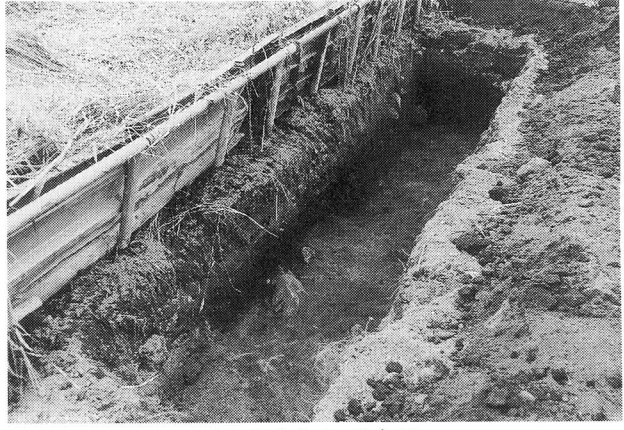
3号住居跡

0 (1:3) 5cm

第14図 県道田富・敷島線（御岳田遺跡内）発見の住居跡と出土遺物



1. 県道田富・敷島線（三味堂遺跡）



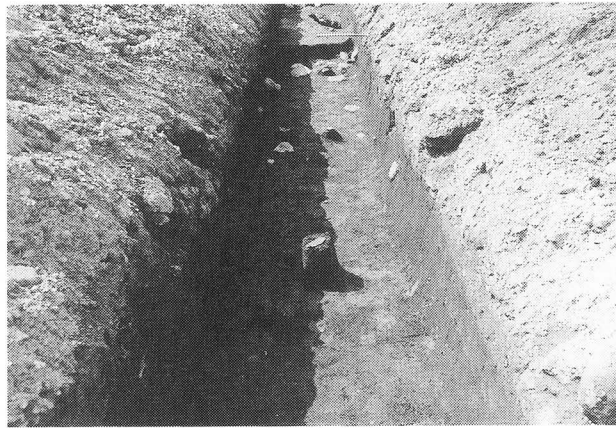
2. A トレンチ全景



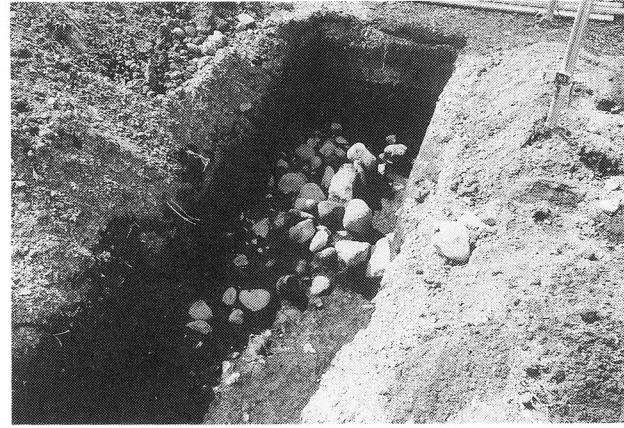
3. 県道田富・敷島線（御岳田遺跡）



4. E トレンチ全景



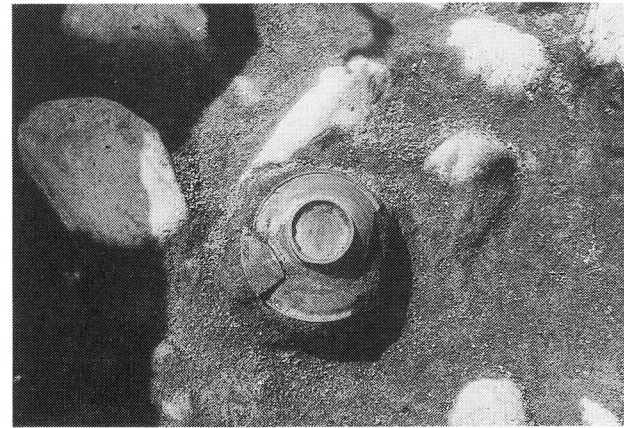
5. E トレンチ 1・2号住居跡全景



6. E トレンチ 3号住居跡全景



7. E トレンチ 2号住居跡全景



8. E トレンチ 2号住居跡出土遺物

e. 広域農道（第3図-9）

所在地 甲斐市宇津谷大中丸横間々 3312-143 外

調査原因 茅ヶ岳東部地区広域農道建設

調査期間 平成16年11月15～17日

調査対象面積 6,875 m²

調査担当者 高須秀樹・小坂隆司

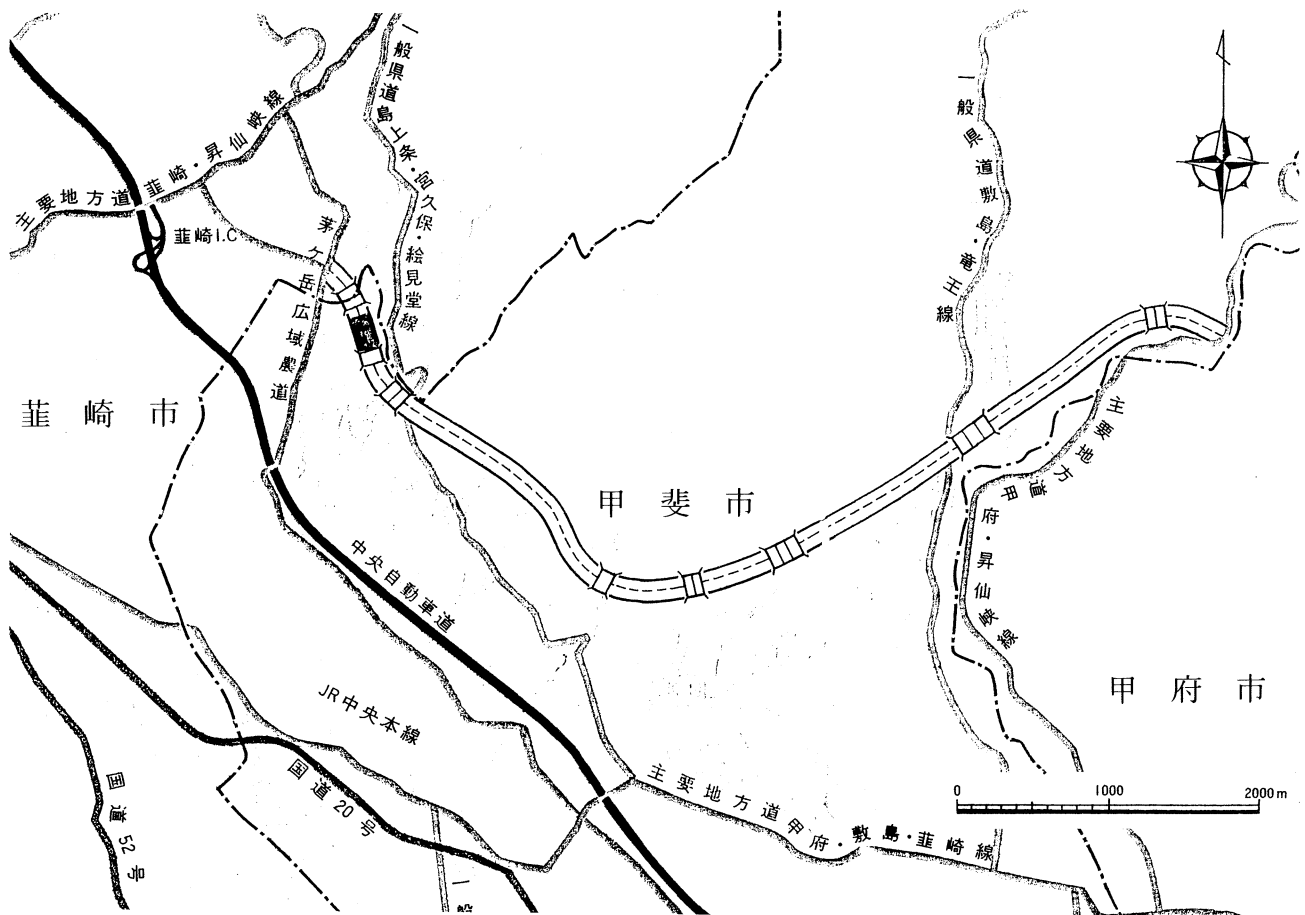
概要 調査原因は、韮崎市方面から甲斐市の中央を横断し、本市の東側を甲府市にかけて縦断する主要地方道甲府・昇仙峡線へと接続する茅ヶ岳東部地区広域農道の建設に伴うものである。この広域農道建設に伴い甲斐市が誕生する以前に、荒川以西の旧敷島町内で昨年2月に牛匂・亀沢地区を中心として第1回目の調査がすでに実施されている。今回はこれに引き続く甲斐市内では第2回目の試掘調査となったが、今後数年をかけて建設が予定されている路線内については、断続的に試掘がおこなわれていくこととなっている。

今回、試掘の対象となった地点は甲斐市の中央西端に位置する。ちょうど韮崎市との境に近接した場所で韮崎の穂坂方面より南北に延びる細長い丘陵上にあたり、この丘陵東側に中沢川、西側には川の沢川が流れている。

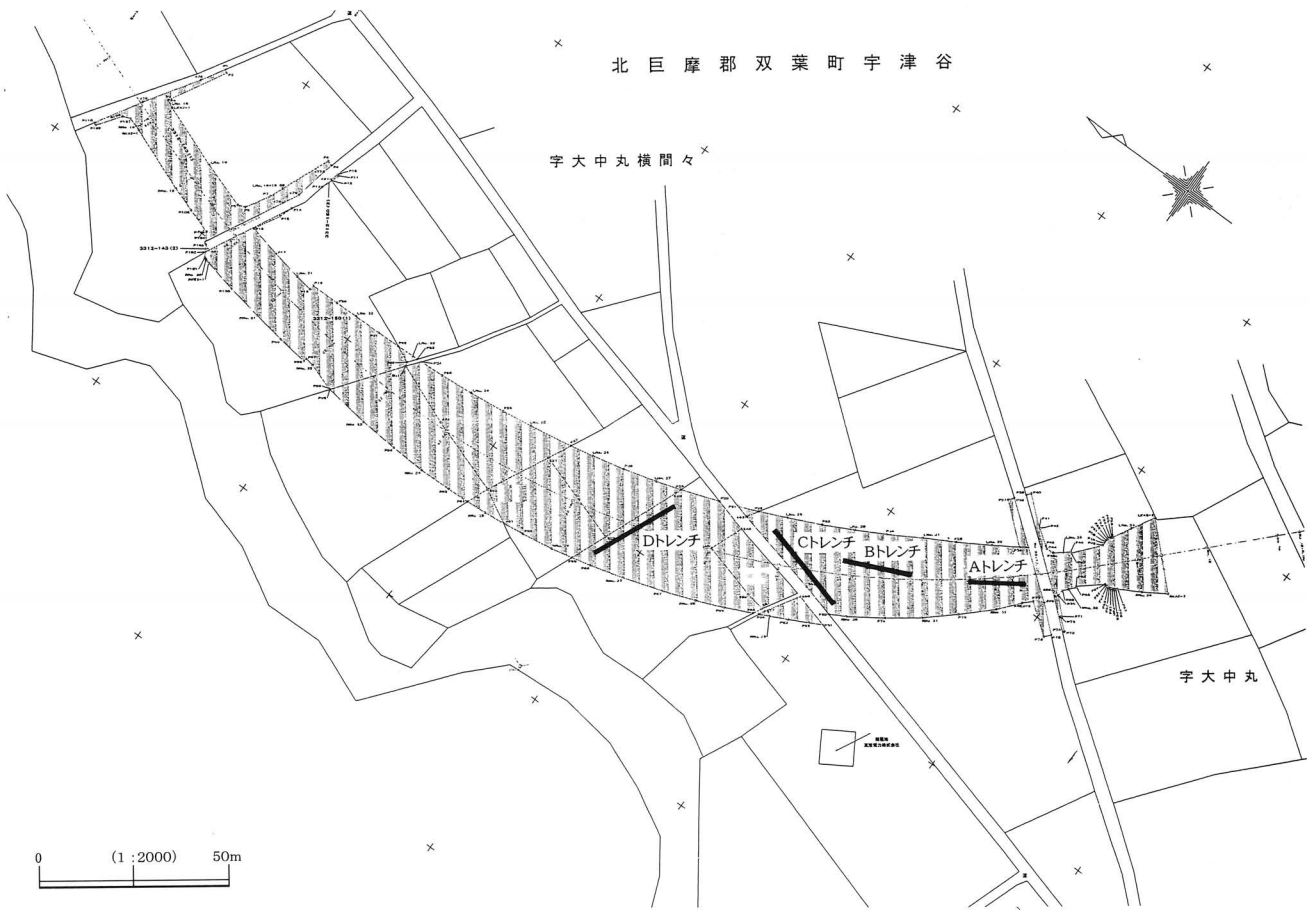
広域農道は、上記の南北に延びる丘陵に対し北西から南東に向かって建設される予定となっていたため、今回の調査では丘陵尾根部から緩傾斜面部を中心に計4本の試掘溝(A～D)を設定することとした。

調査の結果、各試掘溝ともに遺構や遺物は全く発見されなかった。なお、試掘溝の基本土層は1. 表土層(30～50 cm 畑の耕作土)、2. 褐色土層(20～30 cm)、3. 灰褐色軟質礫層(深さ80 cm以上)からなっていた。

とくに第3層は灰褐色土層中に拳大から人頭大などの軟質な礫が濃密に含まれ構成されていることから、本丘陵と周辺地域は茅ヶ岳の噴火による大規模な泥流などが起源となる地質で形成されているものと推測される。



第15図 広域農道調査区位置図



第 16 図 広域農道調査区図



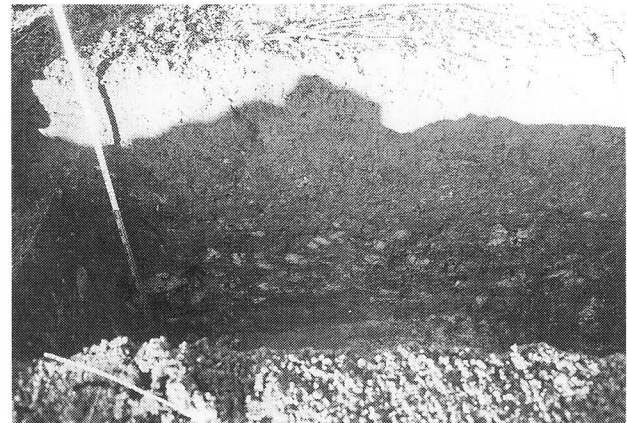
1. Aトレンチ全景



2. Cトレンチ全景



3. Dトレンチ全景



4. Dトレンチ深掘り

f. 松ノ尾遺跡③ (第1図-12)

所在地 甲斐市大下条 1049-1

調査原因 倉庫建設

調査期間 平成17年1月7日～11日

調査対象面積 834 m²

調査担当者 大寫正之

調査概要 松ノ尾遺跡は、甲斐市東端を流れる荒川によって形成された扇状地の扇央部分に位置する。遺跡のある敷島地区は南北方向に伸びる微高地が東西に二筋あり、本遺跡は東側の微高地上に広がる遺跡である。周辺には三味堂遺跡、御岳田遺跡がある。三味堂遺跡とは隣接しており、近年の調査によって松ノ尾遺跡の

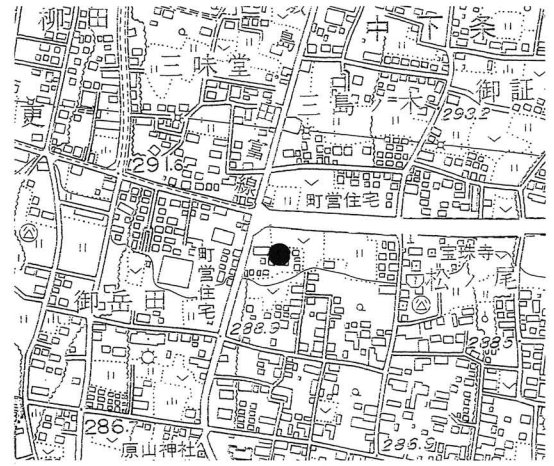
延長として捉えることもでき、今後の検討課題である。

調査は、幅1.1 m、長さ6.7 mのトレンチを設定した。トレンチ西端から東に1.5 m、表面下60 cm地点においてこの場所を西端とする深さ約50 cmの旧河道を確認した。東端は調査区において確認されなかったため河道の幅は不明である。覆土は粘性のある黒茶色土1層で、全体に20 cm前後の花崗岩の堆積が認められた。この覆土中から土師器片などの土器が数十点出土している。

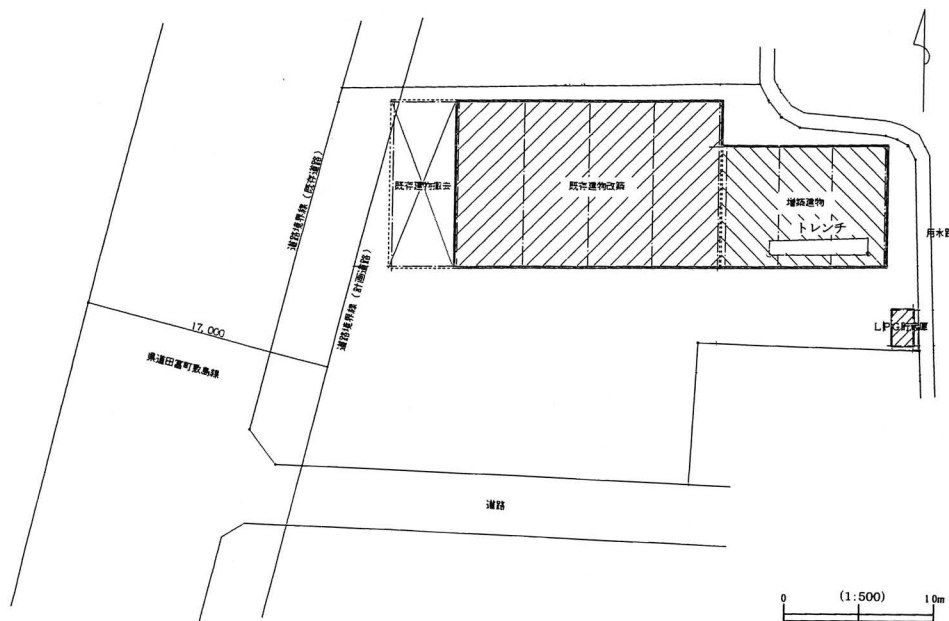
1は土師器高坏、2は土師器坏、推定口径12.8 cm、3は陶器小型碗、4は土師器坏、推定口径12 cm、5は土師器坏、推定口径12.8 cmである。

本河道跡の覆土からは現荒川流域で見られる花崗岩の自然堆積が認められるものの長時間に亘る流水の痕跡は確認されなかった。また出土遺物はみな小片であるが磨耗痕跡はそれほど認められず、周辺の調査なども総合して今回確認された河道跡は本地点から約700 m東側で確認されている旧荒川河道の氾濫によって一時的に形成された自然河道と考えられる。

遺物の量、申請された基礎工事面積などを考慮し、本開発に伴う調査の取扱いは試掘調査までとした。



第17図 松ノ尾遺跡③位置図



第18図 松ノ尾遺跡③試掘調査区図

g. 両目塚北遺跡 (第3図-13)

所在地 甲斐市下今井 2946 番地外

調査原因 遊技場建設

調査期間 平成 17 年 1 月 19～24 日、2 月 7 日

調査対象面積 1,932 m²

調査担当 皆川洋・高須秀樹

概要 釜無川から 100 m 東側の赤坂台地北西頂部から北側傾斜地に位置する。

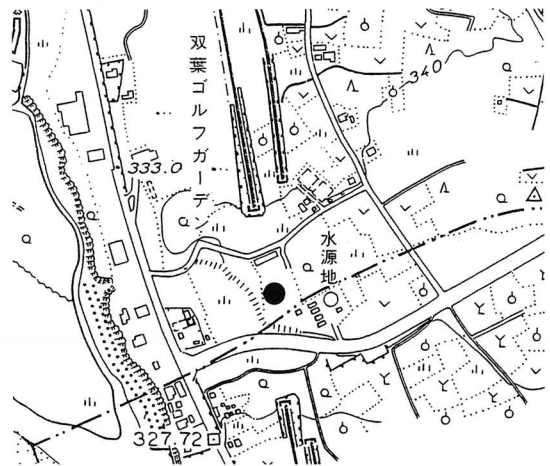
本遺跡は、昭和 61 年竜王町遺跡詳細分布調査により発見された埋蔵文化財包蔵地である。

今回、遊技場の駐車場として最大約 1.5 m の掘削が計画されたため、試掘調査が必要となった。

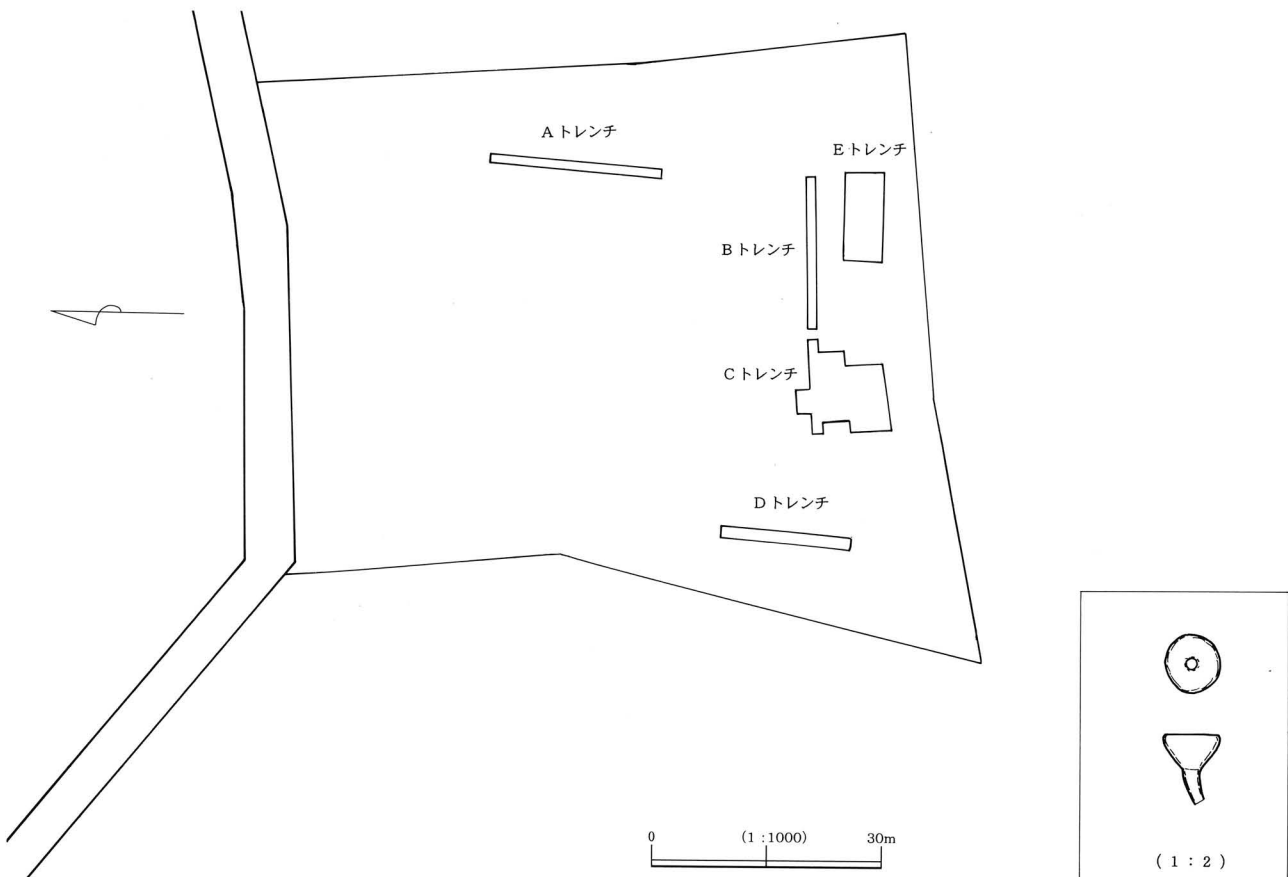
試掘トレンチ 5 本設定 (第 20 図) のうち、A トレンチ以外は緩斜面上にトレンチを設定した。その後、C・E トレンチを拡張し調査を行った。地山は表土から 20～40 cm の深さで確認でき、数箇所自然堆積の集石がみられた。C トレンチ及び C トレンチ拡張部からは 2 基の土坑が発見された。第 C トレンチから発見された土坑は長軸約 150 センチ、幅約 100 cm、深さ約 40 cm、第 C トレンチ拡張部から確認された土坑は、長軸約 150 cm、幅約 100 cm、深さ約 40 cm をそれぞれ測る。

遺物は、土坑上部攪乱部から銅製の煙管が 1 点出土した。

調査の結果、土坑以外に遺跡に該当する明確な遺構が発見できなかったことから、試掘調査で埋蔵文化財の記録保存し終了した。



第 19 図 両目塚北遺跡位置図



第 20 図 両目塚北遺跡試掘調査区図と出土遺物

Ⅲ. ま と め

甲斐市内の埋蔵文化財包蔵地は竜王地区 79 か所、敷島地区 73 か所、双葉地区 64 か所、合計 216 か所が確認されている。今年度は、文化財保護法に基づく届出は旧 3 町を含め試掘調査 14 件、工事立会 22 件、慎重工事 33 件であり、この内本格的な発掘調査を実施したものは 3 件であった。本市は県内でも有数の人口の急増地域として、宅地造成や大型店舗出店などの開発が多く、これに伴う試掘調査並びに発掘調査が数多く行われてきている。このような状況は 3 町合併により甲斐市となった今後も増加していくものと考えられる。

以下、本年度の試掘調査の成果について旧町も含め、その概要についてまとめておきたい。

松ノ尾遺跡は荒川により形成された扇状地上の微高地に存在しており、縄文時代から中世にいたる大規模な遺跡で、過去 12 回発掘調査を行ってきたが、今年度は 3 回にわたり試掘調査を行い、①地点は古代・中世、②地点では古墳・平安時代の住居跡や遺構・遺物が出土し、①・②地点ともそれぞれ発掘調査を実施した。出土した遺物の中でも陶磁器片（白磁片）灰釉磁器は歴史編年役立つ貴重な資料を得ることができた。

三味堂遺跡は松ノ尾遺跡の西側に隣接する遺跡である。これまでに 2 回の発掘調査が実施され、今年度は 1 回の試掘調査を行い、発掘調査を実施している。今回の調査で弥生後期の大型住居跡が確認された。東西軸 4.2 m、南北軸 5.3 m の長楕円形を呈し、南東コーナーにピットを持ち、これを囲むかたちで北側に三日月形隆帯が確認された。大型で隆帯をもつ住居はこれまでに周辺の松ノ尾遺跡で 2 軒調査されており同時期のものと考えられる。これら遺構の性格や立地状況などから、これまで地名によって分けられていた三味堂遺跡と松ノ尾遺跡は同一遺跡としてとらえることができ、遺跡名の変更など検討課題である。

また、県道改良事業にともなって実施された御岳田遺跡の調査では、遺跡の北限の一部が確認され、過去の周辺遺跡の調査などから松ノ尾遺跡、三味堂遺跡、御岳田遺跡周辺の地形的環境の一端が明らかとなった。

茅ヶ岳南麓及び茅ヶ岳の火砕流によって形成された赤坂台地上の調査を実施したが遺跡は確認されなかった。

今年度の試掘調査によって、敷島地区南側の遺跡分布状況、古地形の一部が確認された。また、茅ヶ岳南麓の様相も極僅かではあるが確認することができた。今後もきめ細かい確認調査を実施し、甲斐市の埋蔵文化財保護行政を進めていきたい。

報告書抄録

ふりがな	まいぞうぶんかざいしくつちょうさねんぼう					
書名	埋蔵文化財試掘調査年報'05					
副書名						
巻次						
シリーズ名	甲斐市文化財調査報告書					
シリーズ番号	2					
編著者名	大島正之・皆川 洋・高須秀樹・小坂 隆司					
編集機関	甲斐市教育委員会					
所在地	〒407-0105 山梨県甲斐市下今井236番地2					
発行年月日	平成17年[西暦2005] 3月31日					
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号			
まつのおいせき 松ノ尾遺跡	本文中のとおり	193928	敷-18	本文中のとおり	本文中のとおり	本文中のとおり
さんまいどういせき 三味堂遺跡			敷-27			
みたけだいせき 御岳田遺跡			敷-6			
りょうめづかきたいせき 両目塚北遺跡			竜-25			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
まつのおいせき 松ノ尾遺跡①	集落跡	縄文・弥生・古墳 奈良・平安・中世	住居跡、土坑	土師質土器 灰釉陶器、磁器		
さんまいどういせき 三味堂遺跡①	集落跡	古墳・平安	住居跡	弥生土器、土師器 土師質土器		
まつのおいせき 松ノ尾遺跡②	集落跡	縄文・弥生・古墳 奈良・平安・中世	住居跡、土坑、溝	土師器		
さんまいどういせき 三味堂遺跡②	集落跡	古墳・平安	なし	土師器		
みたけだいせき 御岳田遺跡	集落跡	弥生・古墳・平安	住居跡、土坑	土師器 土師質土器 灰釉陶器		
広域農道	—	なし	なし	なし		
まつのおいせき 松ノ尾遺跡③	集落跡	縄文・弥生・古墳 奈良・平安・中世	河道跡	土師器 陶器		
りょうめづかきたいせき 両目塚北遺跡	散布地	近世	土坑	煙管		

甲斐市文化財調査報告 第2集

埋蔵文化財試掘調査年報 '05

発行日 2005年(H17) 3月31日

発 行 甲斐市教育委員会
山梨県甲斐市下今井 236-2
TEL(0551)20-3658

印 刷 (有)協和印刷社
